

# 新中学校開校準備委員会だより No.11

令和5年6月

修善寺・中伊豆・天城地区新中学校開校準備委員会事務局（伊豆市教育委員会学校教育課内）

## 開校まで残り2年を切った新中学校の構想は…

～新しい学校づくりと現存する3つの中学校の教育の充実へ～

今年度最初の開校準備委員会を開催  
新たに16名の方に委員を委嘱

新中学校の開校と伝統ある3中学校の閉校に向けて  
すべての子供たちにとっての教育の充実を図る

さる6月7日（水）、令和5年度最初の「新中学校開校準備委員会」（以下「準備委員会」）を中伊豆支所にて開催しました。令和3年度に発足した準備委員会も、今回で12回を数えるまでになりました。準備委員会の役割は、令和7年4月に開校を予定している新中学校の準備について、研究や協議を行い、方向性を示すことです。昨年度は、制服等の選定に関することや校名に関する答申を行いました。

本年度は、右表のとおり全25名の委員のうち、16名の方が新たに委員として委嘱されました。新しい顔触れとしては、各地域の代表者に、「地域づくり協議会」から人選をお願いしました。日頃から地域のさまざまな課題に取り組んでいらっしゃる方々のお力をお借りできることは、準備委員会にとっても心強いものとなります。

さて、新中学校の制服を着用した市内3中学校の入学式の様子は新聞や市の広報等でご存じかと思えます。今年の中学1年生は、2年後に新中学校で学ぶことになる生徒たちです。今は3つの中学校でそれぞれ勉学に励んでいますが、一緒になったときにそれぞれの学びがしっかりと継続していくようにするためには、教育課程の編成や学習・生活に関するルールづくり等、ソフト面での整備がますます重要になってきます。

また、新しい学校の準備を進めていく一方で、現2年生、3年生のことも大切にしていかななくてはなりません。この2年間は、新しい学校の開校と同時に、伝統ある3つの中学校を閉じていく期間です。

各中学校においては、1年生から3年生まで、今いるすべての子供たちを視野に入れ、教育の充実を図っていくことが大切であることを確認し合いました。しかし、このことは学校だけでは進められません。保護者をはじめ地域の皆様のご理解とご支援が必要です。準備委員会としては、教育委員会、学校と協力しながら一つ一つ取り組んでいく予定です。

開校準備委員会の構成

区分	人数	令和5年度の状況
有識者	3名	継続
修善寺・中伊豆・天城地区の地域の代表者	3名	地域づくり協議会より3名を選出
修善寺・中伊豆・天城地区の小中学校保護者の代表者	9名	PTA等により選出6名が交代
市内小中学校、義務教育学校の校長	10名	人事異動により7名が交代



第12回開校準備委員会のようす（全体会）  
委員の皆様には、新中学校への思いを一言ずつ話してもらいました。

7月18日（火）締切／校章デザインの募集が始まっています

地域から親しまれ、未来を創造する「伊豆人※」を育てる「伊豆中学校」にふさわし

いシンボルデザインを募集します。市内の方は誰でも応募可、市外の方は条件あり

※伊豆人…伊豆市で育ったことを誇りをもって人に伝えることができる人（R5版「伊豆市の教育」より） 詳細はコチラ→



# 各検討部会での委員の声

3つの検討部会では、それぞれの【問題】について意見交換を行っています。



<p>新校舎整備・学校運営検討部会</p>	<p>【問題】新中学校の学校像や教育目標、教育課程等の検討 【問題】部活動に関すること</p> <p>いずびと 伊豆人にふさわしい生きる力を身に付けた子供を育成したい。</p> <p>農業や林業など伊豆市の強みを生かした、特色のある中学校。体験的な実学を学び、災害時にも生き延びていける力を身につけるべき。</p> <p>自然体験教室など、子供たちにとっては貴重な体験。体験を通して学べる機会を用意してほしい。</p> <p>この地域のよさに気づいていない子供たちも多い。他の地域を見ることで、伊豆のよさに気づかせたい。</p>	<p>他校との交流を積極的に進めていってほしい。オンラインでの交流も一つの方法。</p> <p>地域から学ぶことが多いので、もっと地域の活動に参加させていくことが大切。</p>
<p>制服選定・PTA組織検討部会</p>	<p>【問題】PTA規約・組織等の検討 【問題】閉校に関すること</p> <p>子供の数が減少しているため、役員や行事の規模も縮小する必要がありそう。</p> <p>令和6年度の役員の中から、新中学校PTA運営委員会を組織し、令和7年度以降の活動について検討していただくのはどうか。</p> <p>スタートしてから、少しずつ組織や活動をつくっていくというやり方でもよいのでは？</p>	<p>天城中では、閉校委員会を立ち上げ、検討に入っている。</p> <p>天城地区や中伊豆地区では、小学校での閉校の経験を活かし、OB、OG、PTAの先輩方の協力を得る方法もある。</p> <p>学校と地域、それぞれの役割も明確にしていきたい。</p> <p>予算の確保が大切。</p> <p>学校間であまり大きな差が出ないように。</p>
<p>通学問題・開校支援検討部会</p>	<p>【問題】通学路及び通学環境の整備と安全対策 【問題】校章、校歌の検討及び選定方法の検討</p> <p>通学については、同じ地区の委員が集まって検討すべきである。</p> <p>バス通学については、小学生や高校生が利用する時間帯との調整、交通集中による渋滞が予想されるため、まだまだ検討が必要。</p> <p>校章作成委員会を立ち上げて、校章だけでなくエンブレムのデザインについても検討を行う。2, 3年生はブレザーにワッペンを縫い付けてもらう予定。</p> <p>事務局</p> <p>通学路整備は、庁内の関係各課と連携し、短期対策（グリーンベルトなど）と中長期対策（歩道整備など）に分けて検討している。</p>	<p>新中学校制服での入学式 ブレザータイプ、女子はスカート又はスラックスを選んで着ることができます。</p>

## 武井敦史教授

(静岡大学大学院教育学研究科)

- 今日の活発な話し合いは、伊豆中学校の形に結実してはじめて成果となる。
- 伝統を引きずり、折衷して作ったものは、古いものになりやすい。しばらくは変えることができない。
- 地域資源を生かした学習では、相乗効果によって教科横断的で総合的な学びに発展させていくことが大切。

## 菊地篤子准教授

(名古屋柳城女子大学こども学部こども学科)

- 全部を想定して準備をしていくことは難しい。様々な要素を検討しておくことが大切。
- 新中学校への準備を進める中で、今の子供たちも大切に…今の子供には今しかできない学びがある。
- 部活動では、新しい個人の部活を立ち上げるといのも一つの案である。